平成29年4月28日

学校だより

５月号

横浜市立あざみ野第一小学校

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/azamino1/　　０４５－９０２－７１５１

健やかに育つ環境づくりを

校長　藤馬　直子

校庭の葉桜と色鮮やかなツツジの花とのコントラストが眩しい季節になりました。

入学式から一か月が過ぎようとしています。緊張した顔で登校していた一年生も、スタートカリキュラムを通して、少しずつ笑顔が多く見られるようになってきました。小桜愛児園とあざみ野白ゆり幼稚園の先生方が参観に来てくださると、子どもたちの顔が、パッと明るく、安心した表情に変わったのが印象的でした。初めての給食も、保護者ボランティアの皆さまのご協力で、スムーズにスタートすることができました。ありがとうございました。

また、嬉しいことに、「おはようございます。」と気持ちよくあいさつをしてくれる子が増えてきたように思えます。教室を覗くと、進級した新しいクラスで「頑張ろう。」と思っている気持ちが伝わってきます。中でも六年生と五年生は、朝会や集会での整列や歩き方、委員会や縦割り活動などにおいて模範を示してくれています。今の前向きで素直な気持ちを大切に育てていこうと、職員一同、見通しをしっかりもち、気を引き締めて取り組んでおります。

ところで、横浜市は今、「全国都市緑化よこはまフェア」を開催しています。青葉区は、この行事に合わせて「フラワーネックレス青葉 2017」を実施し、本校も正門にプランターを設置しています。よく緑を増やすことが環境改善のように言われますが、大切なのは、植物が大きく育つ土壌環境を作ってあげることではないでしょうか。桜の根元に落ち葉などを敷き詰めることにより、微生物によって土壌が改良され、翌年には、たくさんの花をつけるようになったという公園のお話を聞いたことがあります。植物は土壌を整えてやると、自らの力で成長していくのだそうです。実は、いつも“花いっぱい”の本校も、この土づくりをしっかりと行っています。ところが、環境の整え過ぎが、逆にマイナス要因になってしまうことがあります。たくさん肥料をあげて、風が当たらないようにするなどの環境を十分に整えてあげます。すると、ワーっと成長しますが、ある日、強い風が吹いたら、コテンと倒れてしまったそうです。これは、人間にとっても同じことがいえます。良い子を育てるには、もちろん良い環境が大切です。でも、環境を整え過ぎることにより、結果的に自らの力で成長していくことの妨げになってしまうこともあります。時には厳しい環境も必要ではないでしょうか。桜守は、身近にある一本の桜をいつも見て「春の芽吹きが遅い」とか「夏に葉が早く落ちた」などの変化に、すぐに対応をするそうです。木の声を聴き、その成長に合わせて育てるのだそうです。私たちも、子どもの変化を見過ごさず、体や心の調子を崩してしまう前に、気付いたらすぐに行動することが大事です。元気のある木は、枝が上に伸びるのだそうです。元気な子どもは、笑顔であいさつをするでしょう。学校、家庭、地域がしっかりと手を結び、子どもたちが健やかに育つ土壌環境を作って参りたいと思います。